Build Live Japan 2013 開催概要

－参加をご検討の方に－

2013/8/19

Build Live Japan 2013 は IAI 日本が主催する BIM / IFC 啓発イベントです。今まで Build Live X として 5 回にわたり開催してきました。2009 年の初回は BIM の黎明期の開催であり、参加チームの挑戦的な取り組みが目を引きました。それから 4 年、2013 年の BIM への取り組みは、普及前段階の産みの苦しみの中にあります。折しも建築情報の統一規格として IFC は IS 化（ISO16739）を果たし、これから一層の広がりを目指します。
Build Live Japan 2013 は変わります。以下をよくお読みのうえ、参加を是非ご検討ください。

Build Live Japan 2013 では、建物に関わるたくさんの関係者が BIM にどのように取り組めるのか、BIM を活用したイノベーティブなプロセスを見せていただくことを期待します。

1. BIM への取り組みの設計図「BIM 計画書」を事前提出（開始－10 日）していただきます。内容は公開し、開催前に質問、指摘する場合があります。BIM 計画書には、メンバーの役割、作業フロー、作業スケジュール、情報フロー（データ形式を含む）、見所などを記載します。主催者からひな形を提供します。
2. 実務と学生のクラス分けは廃止します。参加チームは積極的に他社や他チームとの BIM コラボレーションを目指し、意匠、構造、設備など実際の設計施工チームに即した複数の職種による混成チームを組むことを望みます。各チームには BIM マネージャが必要でしょう。主催者は、チームのマッチングを支援します。
3. 開催期間は 100 時間とします。例えば、月曜日 13 時から金曜日 17 時まで。過剰な長時間作業は控え、余裕を持って作業できるように Phase を分けて作業分担するなど工夫してください。BIM 計画書に作業計画を記載してください。
4. 各チームの取り組みのアッピールは、ご自身で Facebook や Blog など公開メディアに頻繁にアップしてください。評価はこれらを見ながら行います。また、開催中に主催者や審査員からコメントが付くかもしれませんのでよく確認してください。プレゼンテーション用の CG 静止画や終了後の提出物は廃止します。
5. 土地モデルはこれまで同様 IFC 形式で主催者から提供します。敷地周辺の土地と主要建物を含むモデルです。事前（開始－7 日）に概要モデル、開始時点に敷地境界を含むモデルを公開します。土地モデルの使い方は事前セミナーにて説明します。セミナーの内容は Web で公開します。
6. データ交換サーバ（α オフィス）への途中成果物のアップするのは今までと同じです。上記のアッピールと連動させて、作業成果物や判断材料となったファイルや経緯の記録をサーバに上げて、他の方でも再確認ができるようにしてください。データ交換用のフ

ァイルには、データ明細書をペアにしてください。もちろん、名称通りチーム内のデータ交換に活用してください。

7. 終盤でその時点で完成している建物モデルの IFC データを UP していただきます。所要室について、指定した部屋コードを設定してください。主催者で空間の自動集計を実施します。
8. 開催中に主催者や審査担当者から質問、指摘、要望する場合があります。まるで顧客からの突然の変更依頼のような不慮の事態が発生するかもしれません。計画変更への対応も腕の見せ所です。
9. 評価はプロセス中心の評価とします。このため、終了時点で「BIM 計画書」に書かれた取り組みが完了していることはさほど重要ではありません。「BIM 計画書」が無謀な計画では困りますが、高く設定した目標は 100 時間で到達できないかもしれません。取り組んで初めて分かった困難さをアッピールし、それを乗り越える賢いアイデアも是非アッピールしてください。もちろん、きっちりと計画された手順を 100 時間で着実にこなす取り組みもすばらしいものです。いずれにしても、審査員はアッピールを見ることで取り組みを評価します。
10. 参加チーム間の相互投票、見学者投票は従来通り実施します。
11. 審査会では、チームに説明を依頼する場合があります。方法は未定ですが、審査会場への出席、TV 会議などを想定しています。

参加イメージ

例 1：公共施設。利用者、地域住民、運営管理者、設計者、施工者。オープンな建物設計プロセスによって、運営管理者の目標を実現し、利用者、地域住民が納得のいく建築計画を実現する。利用者や地域住民の役割を持つメンバーもチームに入れて、仮想コミュニティ内でプロジェクトを進める。

例 2：デベロッパー、顧客、設計者、施工者、管理者。デベロッパーは顧客の意向に沿い、管理負担の小さい建物を設計者に設計依頼し、設計者は施工者と協力して、設計を進める。

例 3：設計コンサルタントの専門家が BIM マネージャとして立候補者します。立候補は IAI 日本で用意するマッチングサイトに独自の BIM 取り組みのイメージを掲載し、賛同者を募ります。意匠、構造、設備、学生はその提案を見て、それぞれの立場で自分のできることを示して応募します。BIM マネージャ立候補者は、メンバーを集めチームを構成し、Build Live Japan に参戦します。

例 4：チーム内コンペで BIM に取り組む。学生が学内で小さなチームを作ります。共に戦う他チームを募集します。Phase1 でコンペを実施、統一案がきまったら、Phase2 では手分けして BIM に取り組みます。

Build Live Japan における BIM の取り組みとは？

1. IFC 形式によるデータ交換。データ統合

2. データ交換による異業種、異業務コラボレーション
3. 中間データ保管と説明（アッピール）によるアカウンタビリティ
4. 建物関連業務におけるワークスタイルのイノベーション
5. デジタル化による試行の自動化。規格化、標準化を踏まえた自動化

お願い：課題敷地の選定には毎回大変苦労します。お近くに、Build Live Japan の課題敷地としてご提供いただける土地がありましたら、ご提案いただけると幸いです。